令和 3 年 10 月 16 日
北関東フォーラム
於：シムックス

中斎塾　北関東フォーラム
令和 3 年度 第 9 回

おはようございます。コロナで大分生活が変わりました。フォーラムのスタイルも、通常ですと開会挨拶があって皆さんで論語の素読をしてから私の講話になるのですが、いきなり講話なので、まだ慣れません。そのうち馴染んで来るのでしょう。

最初に紹介書籍を申します。『70 歳が老化の分かれ道』（和田秀樹著　詩想社新書）です。本屋さんで立ち読みをしたらなかなか良いと思ったので買い求めました。今の 70 歳はひと昔前の 60 代の身体だということをベースに書かれています。

もう一冊は『文藝春秋』11 月号です。この中に、財務事務次官の矢野康治さんが書いた「財務次官、モノ申す」という論文があります。色々な所で話題になっておりますのでご紹介します。中身を見ると、今の日本の財政は大変危機的な状況で、喩えればタイタニック号が氷山に向かって突進しているようなものだ。しかも氷山は更に大きくなっている・・・と、本人は分かりやすく書いたということなのでしょう。ただ、私の印象では書き方が竜頭蛇尾で、アドバルーンは大きく上げたけれども中身はそれほど感心するような文章が入っていませんでした。このままでは駄目だ、ばら撒き合戦ばかりやっても良くならない、国民は馬鹿ではない・・・ということばかりが書いてあって、これは書かせた人間が後ろにいて操られた文章だと感じました。特に、選挙に合わせてこういう論文が出てくること自体、財務省は変わったと感じます。

今朝の山﨑先生の棒術は中級コースでしたので、急に襲われた時の実践訓練をしました。シムックスの現金輸送に携わる社員は棒を携帯して仕事にあたっています。しかし実際に襲われた体験がないので、形だけになっていると感じましたので、山﨑先生にお願いして実際に襲われた時の対応を訓練して戴きました。ただし長い棒を持って相手を攻撃すると過剰防衛になりますから、専守防衛型で相手を取り押さえるという動きが主でした。

昨夜も尼崎で女性が刺されて亡くなったという報道がされています。背中から襲われたということなので、これは防御することは難しいと思います。これから日本の国の財政状態がどんどん悪化し治安も悪化すると、ごく普通にスーパーやデパートなので簡単な防具類（薄い防弾チョッキや防刃チョッキのようなもの）が手軽に買えるようになって来るだ

ろうと思っています。ただ、富裕層と貧困層の差がアメリカと比べてそれほど広がっていませんから、よく言われるような貧困層が社会に対して恨みを持つという部分は少なかろうと考えます。

今朝の日経新聞に、経済協力開発機構のデータによると日本の年間賃金は 30 年間ほぼ横ばいだという記事がありました。中身を見ると、日本の場合は、上位１％の富裕層が保有する資産は国民全体の 11％で、アメリカは 40％を上位 1％の富裕層が握っている。アメリカと日本ではこれほど違うというデータが出ています。

もう一つ氣になったのは、厚労省が 2018 年時点で調べたデータでは、年間所得 1000 万円以上の所帯は全体の 12％。ピークの 1996 年は 19％で、日本の富裕層は減っているという部分です。私は以前から、日本の中間所得層は一挙になくなったと申し上げていました。以前は年間所得 400 万円以上を中間層と言っていましたが、７、8 年ほど前から日本の中間所得層は 200 万が基準になりつつあると言い続けています。200 万以下が貧困層ということですが、この部分がどんどん増えています。貧困層が増えれば増えるほど治安が悪化するし、自殺者も増える。あまり嬉しくない話がどんどん出て来るわけです。

そこで政府が躍起になって、今度の岸田政権は始まると同時に、国民の個人所得を上げるよう企業に直談判すると言っています。ただ選挙戦の最中は耳ざわりの良い話がどんどん出て来るけれども選挙が終わると消えますから、そう思って公約をよくおさえておけば宜しいでしょう。

則ち哀矜して喜ぶこと勿かれ／君子は下流に居ることを悪む

では、論語に参りましょう。子張篇の 19～20 です。今日の論語は、今の日本の情勢に置き換えて考えるのに大変比較しやすいと感じます。

【十九】孟氏 陽膚をして士師たらしむ。曾子に問う。曾子 曰く、上 其の道を 失 いて、民 散ずること久し。如し其の 情 を得ば、 則 ち哀 矜 して 喜 ぶこと勿かれと。

【二十】子貢 曰く、紂 の不善は、是の如く 甚 だしからざるなり。是を以て君子は下 流 に居ることを悪む。天下の悪、皆焉に帰すればなり。

解説の前に、ポイントを先に申します。

十九章「孟氏 陽膚をして・・・」は、岸田首相と照し合せてみれば良いでしょう。先日、岸田首相が都立病院を視察して医師や看護師さん達から現状を聞いたということで、早速

「聞く力」を発揮したと報道されていました。看護師や介護士、保育士さん達の所に行って現状はどうかを一所懸命聞く。それは、「則ち哀矜して喜ぶこと勿かれと」という部分につながります。現場の人に会って話を聞き、それは大変ですねと同情し、現場のことがよく分かって良かったと喜んでいる・・・という状況がこの文章から見えてきました。

実情を知ることは大変良い事ではあるけれども、論語には「実情を知ったからといって、喜ぶことなかれ」と書いてあります。当然、知らないより知っている方が良いわけですが、実情を知った後、どういう具体的な手を打つかが肝心です。

岸田さんの公約を読んだり聞いたりすると、実に綺麗ですね。悪い事は出していません。ただ、具体的な話も出ていませんでした。耳ざわりの良いことは沢山言っているけれども、具体策がまるでない。時間がないからということかもしれませんが、総理大臣になる人は自分が総理大臣になったらこれだけは絶対にやりたいというものをもっと打ち出さなければいけないと思います。岸田さんは出馬宣言をしてから大分時間が経っているのですから。

今回、岸田政権は安倍さんのご機嫌を伺わなければ誕生しませんでした。安倍さんは自分の力を固持したいし、麻生さんは自分が大きくした派閥をまとめきれず、このままでは派閥を掌握出来なくなるという危機感から安倍さんと形は違うけれども同一歩調をとりました。要するに、自分達の影響力を如何に残すかという動きをしたわけです。二階さんは、少し違っていました。自分を追い落とそうとする岸田さんに対してそっぽを向いていたけれども、直前になって岸田さんと会談し、ポストと交換条件に票を入れると言ったやに聞きます。

こういう状況が見えれば見える程、「孟氏 陽膚をして・・・」の論語と現代と見比べてみれば、変わりはしないのだなあと思っています。

二十章「子貢曰く、紂の不善は・・・」は、「下流に居ることを悪む」という部分、則ち評判がどのように作られるか、世論の誘導がポイントです。下流にいると、悪い事が起きたら＜皆あいつのせいだ＞というようにメディアが世論の誘導をすれば、どんどん一つの方向に向かって進んで行く。トランプさんが氣に入らないニュースを「フェイクニュースだ」と言いましたが、フェイクニュースも流し続けていればフェイクでなくなる。「下流」という言葉をそう置き換えて考えればよいでしょう。

なぜ良い評判がたつのか、なぜ悪い評判がたつのか、子貢は人の評判がどのように作られるのかを承知しています。さほど酷くない人間でも、世論の誘導具合によっては黒を白にすることも出来るし、その逆も然りという文章です。これを現代に置き換えてみれば、ごく当たり前にやっている話だと感じます。

では、細かく解説を致します。

【十九】孟氏（もうし） 陽膚（ようふ）をして士師（ししたらしむ。

孟氏が陽膚を司法長官に任命しました。

孟氏は、魯の国の大臣とお考え下さい。陽膚は、曾子の弟子です。

孔子の時代、国のトップは孔子のお弟子さんを自分の国で要職に就けたいと思っているし、孔子のお弟子さんも良い所に就職をしたいと思って孔子の元にどんどん集まって来るという状況でした。孔子が亡くなった後もその流れは変わらずに、孔子の教えを学んで素晴らしい人物が孔子の系統からは出ていましたから、孟氏が曾子に、あなたのお弟子さんを是非欲しいということで、陽膚が仕えたのだと思います。

曾子（そうし）に問（と）う。曾子（そうし） 曰（いわ）く、上（かみ） 其（そ）の道（みち）を 失（うしな）いて、民（たみ） 散（さん）ずること久（ひさ）し。

陽膚が、司法長官の心得を曾子に尋ねました。

曾子が言うには、今は上に立つ者が道（心構え）を失ってしまった。その結果、民の道義が離れてしまい法を犯すようになって、大分経った。

会社で考えれば、トップが私利私欲で動いていれば社員の心は離れてしまいます。上下の氣持ちが一致していれば素晴らしいパワーが出るでしょうが、上の言う事を信用しないで疑いつつ仕事をするから 2、3 割しか力が出せないことになります。

今、働き方改革が叫ばれていますが、日本人はもともと働くことは善い事だと考える国民性だと私は考えています。欧米では働くことは悪い事をした罰だと考える。働くという事に対する考え方が正反対です。どうも日本という国は外国から入って来た思想を素直に受け入れて、それに合わせて行動することが当たり前になっている氣がします。そう考えると、働き方改革に関しても、日本は働くという事について外国とは違うのだと声高に主張しなければならないと思っています。

如（も）し其（そ）の 情（じょう） を得（え）ば、 則（すなわ） ち哀（あいきょう） 矜（よろこ） して 喜（よろこ） ぶこと勿（な）かれと。

法を犯した者の実情を知ったならば、同情し慰めるが良い。実情が分かったことを喜ん

ではいけない。

先ほど申しましたように、岸田首相は実情を知ったならば国民の側に立って同情し、色々な政策をとるが良い。現状が分かっただけで喜んではいけない・・・とお考え下さい。

月末には衆院選がありますが、今の自公政権は選挙の中身によっては激減する可能性がありますね。小池都知事が一つ発言をミスしたために一氣に落ちて行った。そういう状況が感じられます。今朝の新聞にも、自民党は勝てる候補を優先して公認したとあります。群馬県は中曽根さんの孫の康隆さんが勝てる候補ということで公認されました。恥も外聞もなく、とにかく当選した者が勝ちだというのが透けて見えます。日本全国、全部そうなっています。

そうすると岸田さんは何を考えなければならないのか。内閣総理大臣としてこれだけは絶対にやりたい！ というものを標榜すればよいのです。池田内閣が出した所得倍増を打ち出そうとしましたが、あれもこれも摘まんだから、色々な主張が沢山入ったけれども皆パンチ不足だと感じます。

「民 散ずること久し」（国民の氣持ちが政治から離れて大変時間が経った）という部分で私が連想したのは、政治家は舌が二枚あるということです。笑い話のようですが、実際に政治家の方と会ってお聞きすると、「二枚どころじゃない、五枚も十枚も持っていますよ」と言った人もいました。悲しいことだと思っています。

【二十】子貢（しこう） 曰（いわ）く、紂（ちゅう） の不善（ふぜん）は、是（かく）の如（ごと）く 甚（はなは） だしからざるなり。是（ここ）を以（もっ）て君子（くんし）は下流（りゅう） に居（お）ることを悪（にく）む。天下（てんか）の悪（あく）、皆（みなこれ） 焉（き） に帰すればなり。

紂は殷という国の三十代目、最後の君主です。暴君の代表と言われるような評価を得ています。

子貢が言うには、紂王は世に言われるほど酷くはない。だから、君子は下流に居ることを嫌がる。天下の悪名が集まって来るからである。

「君子」は世に名前の通っている人間とお考え下さい。「下流」は悪い事をした人間が姿を隠すような場所、ひと昔前の山谷のような所です。山谷で生まれ暮らしている人間が何かを発言しても、そうそう世間は取り上げてくれないし、かえって逆の評判が立つ。たまたま悪い事をした人間が山谷に逃げ込んだとすると、世の中の悪い事は、全部そこに押し付ければよい。下流という言葉をそう考えればよいでしょう。

アフガニスタンで考えます。9.11 のテロでは、飛行機がツインタワーに突っ込んで二つのビルが崩れ落ちました。この事件の中に、本当かどうか分からない話が沢山あるわけです。一つご紹介すると、相当昔に中国がアメリカにお金を貸していた。金利もかさんで大変な金額になっていて、その支払日が近づいていた。・・・ここからはアメリカの言い分ですが、返済金も証書もそのビルと共に灰燼に帰してしまったが、これはアメリカのせいではない・・・と、結局うやむやになったという話があります。

また、9.11 のような自爆テロは、日本の神風特攻隊が元になっている。日本人は何をするか分からない怖い民族だ、という話もあります。

アメリカはビン・ラディンを追いかけて、アフガニスタンに戦争を仕掛けタリバンを攻撃しました。しかし勝てるつもりでいたのが、この間のような惨めな撤退をする結果になりました。アメリカが他国に対してちょっかいを出し戦争を仕掛けて、結果アメリカの思い通りになったかというと、なっていません。

そう考えたところで、木内信胤先生が 35 年くらい前に、「アメリカはこれから一氣に落ちていく」と予言しておられたことを思い出しました。

話があちこちに飛びました。このように、一つの論語から色々なものが頭に浮かぶわけです。皆さんも論語を読んで何かしら浮かぶと思います。その時浮かんだものを出来れば書き留めて、掘り下げる。浮かんだものを調べる。その習慣がつくかどうかが、レベルアップするかどうかの境目だと思います。

ではレジュメに戻りましょう。今の時代に置き換えて考えてみます。レジュメに、「世論は怖いと思う。裁判は何のためにあるのかを我が身に置き換えて考えてみる必要がある。」と書きました。

今回選挙がありますが、私は選挙のたびに腹が立ちます。情報がまるでないのにかかわらず、最高裁判所裁判官国民の審査がおまけでついて来ます。こんな失礼な話はありませんね。この裁判官は過去にこういう裁判をした、内容はこうだ、この裁判官の信条はこうだ、等々の判断をする材料が欲しいといつも思います。

選挙の時にいつも申し上げていることは、立候補をしている人たちは票を入れるに値しないと感じる人が世間に沢山いると思います。投票所に行って投票して下さいと言うのであれば、＜一票投じる人間がいない＞という意思を受け入れる選挙制度でなければいけないと思います。＜対象者なし＞ということを一票として正式に捉えてくれるような選挙制度であって欲しいといつも思います。そうすれば白票を投じる人があっという間に増えま

すよ。今の候補者たちは、氣がつけば世襲の人ばかりになっています。これではとても日本の国が変わるわけがありませんので、「白票派」のようなものが欲しいなと考えています。

「世論は怖い」と書いたのは、世論は作られますから。悪い人間だと言われ続けて世論が定まると、そう簡単には覆せない。そうすると、世論を操作する者が世の中にいるはずで、それはいったい誰なのかを私たちは考える必要があると思います。

日本が置かれている立場を考えると、日本の国の世論はどう形作られているのか、どこから世論を操作されているのか、そういう視点で考えます。例えば、昨年のアメリカの大統領選挙ではロシアが介入したという話が広がりました。北朝鮮も動いていたという話も聞きました。日本の場合も同じくです。日本は野放図で、やられ放題の国だという感覚を持っています。

一つのものの見方が出るとそれ以外のものが見えなくなる、これは大変恐い事です。例えば仕事に関しても、色々な視点から自分の仕事を見る必要があります。先日、会社の車が信号で止まっている所に、赤信号で相手の車が突っ込んで来てぶつけられました。その場合、普通は事故の割合は 10 対 0 です。ところが相手方の保険会社は重箱の隅をつついてお金を払い渋る姿勢でした。これは私の印象だけではなくて、実際に損害保険関係の方に聞いてみると、確かにそういう評判でした。調べてみると、私個人や私が関係している会社でその保険会社の保険に加入している件数が相当ありましたので、全て別の保険会社に取り替えようと思っています。

ですから今自分がやっている仕事は、普通に仕事があれば当たり前にずっと続くと思ってはいけません。何かあれば一氣に無くなると思って下さい。逆に何かあれば他所が無くなった分、一氣に増える。そういう事があり得る世の中になりました。

会社のトップであれば、何故自分の会社に仕事を下さるのか、何年かに一度でもお客様に直に会って本音を聞く。そして、聞いたら本音で答えてくれる、そういうお付き合いをしなければ、或る日突然全部無くなることも十分考えられると思っています。選挙で言えば、或る日突然、自公政権がひっくり返って別の政党が覇権を握ることも十分起き得る。今、政治は綱渡りをしています。会社も同じことだと感じています。

恒例の質問

では、恒例の質問に参ります。最近は緊急事態も解除されて、あちらこちらへ行けるようになりましたが、今のコロナ禍を踏まえてお考え下さい。

○　ここ数ヶ月、良い日がずっと続いている方

○　ここ数ヶ月、嘘はつかなかった方

　　それにしては世間は嘘が充満していると思う方

○　ここ数ヶ月、有難うと言い、有難うと言われることが多かった方

○　ここ数ヶ月、身体の手入れをよくやっていると思う方

○　ここ数ヶ月、自分磨きをよくやっている方

皆さん手が挙がりました。

○　眠る直前、明日以降のことを＜達成出来て良かった＞と思って寝た方

恒例の質問をさらっと致しました。私は毎晩眠る前にこういう事を考えて、納得してから寝ます。同時に認知症対策もしています。渋澤栄一さんは寝る前に、＜今日は誰と会って、どんな約束したか＞を思い出してから寝ることを習慣にしていたので、渋澤老人の記憶術と呼ばれるようになったと述懐しています。私もそれに倣って、＜今日はどんな事があった・誰と会った・何を約束した＞を一通り思い出してから眠るようにしています。夜寝る前に何を考えて寝るか、これは大変重要だと思っています。

令和 3 年を考える

ではテーマに入ります。

○　辛い・苦しい・むごい年回り

まだ、「むごい」という体験がありません。ないままで過ぎてくれると良いのですが、むごいことがあるかもしれないという腹構えをお持ちいただくと良いでしょう。

○コロナは一歩一歩人間社会に入り込み、しっかり地歩を固める年回り

コロナはもう人間社会に入り込んでしまったし、地歩も固めてしまいました。ですからウィズ・コロナ（コロナとどう生きていくか）をお考え下さい。コロナはインフルエンザと同じだと言うお医者さんもだいぶ増えて来ました。それがそのまま定着したとしたなら、コロナにとって代わるウィルスがまた出現します。人間社会はウィルスに対する知恵がどんどん進むでしょうが、更にそれを上回るウィルスが出てきて拡散すると考えていた方がよいと思います。したがってマスクも当たり前、手洗いやうがいも当たり前です。そして、冒頭ご紹介した『70 歳が老化の分かれ道』にも書いてありますが、＜よく食べ・よく眠り・よく出し・よく動く＞。ごく当たり前の事を当たり前に実践できるかどうか、規則正しい生活をきちんと狂いなく実行していけるかどうか、これがポイントだと思っています。

○一氣に落ちてゆく人々と、一氣に駆け上がる人々が生まれる

今日はこの後に、今井副理事長が高橋是清について研究発表を予定していますが、高橋是清はこの「一氣に落ちて、一氣に駆け上がる」を地で行った人です。アメリカに留学し

たところ奴隷として売り飛ばされました。その人間があれよあれよという間に内閣総理大臣に上り詰めたわけです。一生の間で、真っ逆さまに落ちた時と一氣に駆け上がった時と両方の人生を体験しているので、非常に楽しい話が聞けると期待しております。

お時間になりました。最後に、今日の論語は岸田首相がこれから何をするか、そのヒントが入っていたと感じておりますので、もう一度岸田首相のことを意識しながら素読をしてみて下さい。そして、何か氣になるものがあればメモをして、掘り下げる。そういう習慣をつける事をお願いして、本日の講話を終了致します。